平成２８年度　奈良県子ども読書活動推進会議議事要旨

日　時　　平成２８年７月８日（金）午前１０時～正午

場　所　　奈良県中小企業会館４階　会議室（１）

出席者　　奈良県くらし創造部次長（議長）　吉田　晴行

奈良県図書館協会公共図書館部会代表　中　知子
（奈良市立中央図書館長）
奈良県学校図書館協議会代表　荒木美久子
（奈良市立佐保台小学校長）
奈良県学校図書館協議会
高等学校図書館研究会代表　足立　有司
（奈良県立高円高等学校長）
奈良県都市教育長協議会代表　福西　繁
（橿原市立図書館長）
奈良県町村教育長会代表　澤田　糸美
代理　田原本町立図書館管理係長
民間団体ボランティア代表　井上　幸子
（奈良子どもの本連絡会）
学識経験者　松川　利広
（奈良教育大学教職大学院教授）
奈良県立図書情報館副館長　鈴木　陽生
代理　奈良県立図書情報館総合サービス係長
奈良県教育委員会事務局学校教育課長　深田　展巧

奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課長　福井　弘人

奈良県くらし創造部青少年・社会活動推進課長　森　啓

〇会議の公開について

・本会議は、「奈良県子ども読書活動推進会議公開の取扱い」及び「傍聴要領」を規定している。この「取扱い」により、会議は原則公開とし、開催に際しては傍聴席を設け、終了後は奈良県ホームページにて議事録を掲載する。

〇議長挨拶

〇委員紹介

〇議事要旨

（１）平成２７年度事業報告

①子ども読書活動推進会議について

平成２７年度は、７月２８日に当会議を開催した。子どもと本をつなげる様々な取組や課題など多くのご意見をいただいた。

②「子どもの読書活動推進」啓発ポスター募集事業について

平成２４年度から事業を継続している。昨年の参加作品は小・中・高あわせて５０７作品、審査会でそのうち２０作品を優秀作品として選考し、県内施設での展示等、啓発に活用した。

③子ども読書活動推進講座について

子どもの読書活動推進を目指した講座。この講座は、図書館関係者・読み聞かせボランティア、教員等を対象に、講義・実践の形で行っている。昨年度は人権･地域教育課主催で４回開講し、計１２５名の参加があった。

④子ども読書活動推進会議専門部会について

平成２７年１２月１日、子ども読書活動推進会議の専門部会を開催。専門部会では、子ども読書活動優秀実践図書館ならびに団体に対する文部科学大臣表彰の推薦に関して協議し、奈良県からは「葛城市立新庄図書館」と香芝市の「えほんたいむボランティア」を文部科学省へ推薦した。今年４月には文部科学大臣の表彰が決定し、国立オリンピック記念青少年総合センターにて表彰式が開催された。

⑤子ども読書活動推進フォーラムについて

平成２８年３月８日、平成２７年度子ども読書活動推進フォーラムを実施した。奈良県立図書情報館交流ホールにおいて「地域･学校･図書館の連携を目指して　～学校における読書支援ボランティアの取組～」と題して、奈良市立大安寺西小学校において、毎日の朝読に読書ボランティアとして読書支援の活動を続けておられる読ボラ隊の取組をご報告いただき、４９名の参加があった。

（２）奈良県子ども読書活動推進会議設置要綱の改正について

毎年文部科学省から、すぐれた実践を積まれている団体等の文部科学大臣表彰への推薦依頼がある。対象は、学校、図書館、団体の３部門であるが、昨年まで学校については、奈良県教育委員会において選考し、手続きを行っていた。本年度からは、これまでの図書館、団体の推薦選考に加えて、学校についても当推進会議の専門部会の委員の方々に選考していただくのが良いと考える。従って、奈良県子ども読書活動推進会議設置要綱第９条第６項の一部を改正する。

（３）平成２８年度事業計画

・昨年の会議において、今後の市町村の推進計画策定への支援、子どもたちが読書活動に親しむことができる時間の確保や環境の整備、機会の提供等、積極的な子ども

の読書活動推進の啓発に取り組んでほしいという意見をいただいた。本年も、この方針に沿った事業の展開を考えている。

① 市町村の子ども読書活動推進計画の策定について

本県では、平成２７年度末で１５市町村が計画策定済み、策定率は３８．５％となっている。今後も市町村への支援を継続していくことが必要である。今後、未策定の市町村に対し、策定作業が速やかに進むよう、これまで策定された市町村の情報を提供するなど、積極的に支援をしたい。

② 「子どもの読書活動推進」啓発ポスター事業について

昨年に引き続き、今年も啓発ポスター募集事業を実施する。現在、県内各学校に応募要項やチラシを配布し、作品を募っている。

また、今年も、昨年度のポスター優秀作品２０点の縮小版を県立教育研究所で展示中である。月末には、「絵本ギャラリーin 奈良」や、８月には再度県立教育研究所で展示を予定している。

ポスター審査会は１０月末ごろの予定。昨年同様、奈良県学校図書館協議会代表、奈良県高等学校図書館協議会代表、学識経験者、奈良県教育委員会事務局学校教育課指導主事及び当課課長で審査を行う予定である。優秀作品の展示は、１１月１日から県立図書情報館で行う。また、県庁屋上ギャラリーや教育研究所等県の各施設ならびに市町村立図書館等においても展示する予定である。ご協力いただく委員の方には、大変お世話をおかけしますが、よろしくお願いしたい。

③ 子ども読書活動推進会議専門部会について

子ども読書活動推進会議専門部会の開催は、文部科学省からの通知に基づき開催しているが、その時期が一定でないので「時期未定」としている。年末か年明けには、平成２９年度の文部科学大臣表彰推薦について協議していただく予定をしている。本年度から、学校、図書館、団体の３部門の選考をお願いする。

推薦に関しては、毎年図書情報館、各市町村立図書館等にご協力いただいており、今年度もよろしくお願いしたい。

④ 子ども読書活動推進フォーラムについて

子ども読書活動推進フォーラムについては、３月上旬の開催を予定している。子ども読書活動推進のため活動されている方が、実践に役立つ情報を得られるような内容ならびに市町村の子ども読書活動推進計画策定の参考になるような内容で開催を検討していくが、委員の皆様のお知恵もお借りできたらありがたい。

⑤ 子ども読書活動推進講座について

県教育委員会事務局人権・地域教育課社会教育係が主催で実施している子ども読書活動推進講座については、本年度も引き続き、読み聞かせボランティア等を対象に、講義・実践を行う予定である。

〇意見交換

県教育委員会の取組について

〇奈良県教育委員会事務局学校教育課長　深田展巧委員

・奈良県の子どもたちの読書に係わる状況を紹介する。まず、平成２７年度全国学力学習状況調査の中の読書に関する質問の結果の中で、「読書は好きですか。」という質問

に対し、小学生６９．２％、中学生６２．７％が好きですと答えている。この数字は全国的に大変低く、全国での順位は小学生４６位、中学生４３位となっている。また、「１日あたりどれくらいの時間読書をしますか。」という項目では、２時間以上読むという小学生は８．１％、中学生は６．３％である。これは小学生で全国２位であり、たくさんの児童がたくさん本を読んでいるということである。中学生は１６位であった。逆に「全く読まない。」という小学生は２３．５％　、中学生４２．６％。全国平均は小学生１９．９％、中学生平均３５．０％であり、順位は残念ながら小学生は全国２位、中学生は全国３位となっている。

・また、「図書館へどれくらい行きますか。」という問いには、図書館へほとんど行かない、全く行かないという小学生が３５．１％であり、全国平均は３０．７％となっている。中学生は６７．２％、全国平均５７．０％となっており、図書館に行かないという児童生徒数が多いという傾向が出ている。

・学校内の様子については、２年毎に文部科学省が実施している「学校図書館の現状に関する調査」が本年度実施された。学校図書館法では、小中学校、高等学校において１２学級以上の学校には司書教諭を置かなければならないと定めている。奈良県の場合は、すでにすべての学校に司書教諭が配置されている。

・全国平均も示されている平成２６年度の調査結果によると、全校一斉読書についての調査では、朝読を実施している学校が多数ある。奈良県の場合、小学校で９５．６％、中学校の６９．５％が朝読を実施している。高等学校では７７．１％という多くの学校が実施している。全国平均は、小学校９６．７％で奈良県より少し高く、中学校は８８．３％で奈良県は１８．８％低いという結果である。ところが高等学校は全国平均４２．９％であり、奈良県が３４．２％高くなっている。

・このような調査結果を受け、学校教育課の指導主事から、読書の大切さを学校長および市町村の教育委員会に周知し、全校一斉読書等の取組が進むように働きかけを行っている。また、秋の読書の季節や読書週間を控え、全校一斉読書活動が１００％実施されるように啓蒙活動を行うなど、今後も、学校教育課として、積極的に読書活動の推進･啓発に努めてまいりたい。

学校での読書推進について

〇奈良県学校図書館協議会代表
　奈良市立佐保台小学校長　荒木美久子委員

・先ほどの話で印象的であったのは、高等学校の全校一斉読書活動の実施率がきわめて高いということである。これには多くの要因があると思うが、その一つの要因に高等学校には学校司書が配置されていることが大きいと思う。つまり、図書館に人がいるということが要因だと感じた。司書教諭が全県全校配置ということはすばらしいことだと思う。司書教諭は専任ではなく、そのため、学校には司書教諭がいるが、図書室、学校図書館にいつも人がいる状況にはない。しかし、司書教諭の先生方には、日頃から意識を持って子どもたちに接し指導してもらっているので、２時間以上読書する率が高いのはこのような日頃の取組の成果だと思う。

・奈良市は、昨年から市立図書館の司書さんを学校に学校司書として配置されている。まだ数は少ないが、本校にも司書さんに来ていただいた。そのことにより、先生方の

授業が変わった。司書さんに公共図書館の本を持ってきてもらえる。また、その本と入れ替えもしていただける。本を選び、本を運んでいただける。本を届けていただけるということで、本校では先生方の授業の形が変わったという体験をしている。

・このことについては、奈良市立中央図書館長に大変お力添えをいただいた。「司書」の役割には、公共図書館と学校図書館で違いがあるが、その間をうまく調整していただいたので感謝している。

・子どもたちの不読の問題等の解決のため、子どもたちに対する教員の指導力を高めなければならないと思っている。その解決の１つになるように、今年８月４日、５日に奈良学園大学登美ヶ丘キャンパスを中心会場として、第２０回近畿学校図書館夏季セミナー奈良大会を開催する。その中で、学校図書館の機能に着目して、学校図書館のリーディング･センターとしての役割、ラーニング・センターとしての役割、クリエイティブ･センターとしての役割、学校図書館ネットワーク・センターとしての役割という分科会の設定を行った。これまでから、学校図書館の機能としては、読書センター、学習情報センターとされているが、現在、アクティブ･ラーニングがいわれ、ラーニング・コモンズというような機能の充実が求められていることから、学校図書館を再考する機会になればと思っている。

・この分科会の設定については、奈良教育大学の松川教授にご指導をいただいたことに深く感謝申しあげたい。セミナーには、学校関係者だけでなく、ボランティアの方にも参加いただけることになっている。多くの参加をいただいてこのセミナーが成功するよう願っている。

県教育委員会の取組について

〇奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課長　福井弘人委員

・課の名前が人権・地域教育課ということで、いろんな仕事を担当している。その中で、図書館や読書そのものを直接担当しているわけではないが、読み聞かせに関するボランティアの育成を目標に社会教育の担当者が事業を実施している。

・具体的には、８月２５日に、子どもと本をつなぐ読み聞かせ研修講座を教育研究所において４５名の方を対象に講座を開催する。児童文学作家の今関信子先生をお招きして実施する。非常に人気が高いが、研修の手法として一度に多くの人数を対象にできないので、募集枠としては４５名となっている。また、初心者の方を対象にした講座開催を１月に予定している。これには、奈良教育大学の横山先生にお願いする予定で、こちらも募集は４５名と考えている。人数が少ない中で、講師の先生とボランティアの方がマンツーマン的な形で講座を進めている。講座の回数をどうするかが課題である。また、これとは別に、読み聞かせのボランティアの方を対象にしたブックトーク講座を来年の１月か２月に計２回開催を予定している。１回につき４５名募集する予定である。

・このように、県内でいろいろな方、特にシニアの方を中心に力量の高い方が多くおられるので、そういう方々の力を活用しながら子どもたちに対し読書に慣れてもらうための読み聞かせを広げていきたい。

・昨年までの人権･地域教育課では家庭教育も担当し、就学前の子どもたちに対する対応もしていたが組織の見直しによって、本年度から、それらについては教育委員会の県

立教育研究所で担当している関係でこの推進会議としても県立教育研究所に参画してもらった方が良いのではと考える。

・次代の親になる直近の高校生を対象にした講座を昨年は開催した。参加した高校生は生き生きと参加していた。人数的には２６名と少人数であったが受講生一人一人の評価は高かった。若い方、シニアの方を対象にした読み聞かせなどの講座研修を行うことによって、帰宅時間が遅いため子どもと接する時間が短く、子どもに対する本の読み聞かせがなかなかできないという保護者の現状を何らかの形でフォローできるような取組を実施したい。

県くらし創造部の取組について

〇奈良県くらし創造部青少年・社会活動推進課長　森啓委員

・市町村の子ども読書活動推進計画の策定状況について、これまでの経緯と現状について説明する。

・平成２５年に赴任したとき、この推進会議で子ども読書の推進計画の策定があまり進んでいないが、県としてどういう方針なのかと問われた。当時は１１の市町村でしか計画が策定されていなかった。限られた人数で我々に何ができるかを考えたとき、子どもたちに最も効果的なのは市町村の推進計画であり、市町村で計画をつくる事で直接子どもたちに対応ができる。また、推進計画の策定過程で市町村内の図書館、学校の図書室、教育委員会、ボランティアの皆さんなど、それぞれの方々が集まり議論することで読書の大切さを再確認し、互いに協力・連携していく仕組みができる。そして、市町村の推進計画をつくることをきっかけに、具体的な取組も協力連携することができたという話も聞いた。以上のことから、市町村推進計画の策定をすすめてもらえるように訪問しようと考えた。当時、各市町村には推進計画の策定はハードルの高いものという思いがあったので、市町村推進計画策定マニュアルを作り、効率的に策定できるような資料も作成し持参した。そのような働きかけもあり、以降４市町村で策定していただくという結果につながった。また、５、６市町村で現在策定中や検討中となっている。働きかけをした後、予算化や計画策定に２、３年は経過しているのが現実である。なかなかすぐに成果が出ないのでしばらく様子を見ていきたい。

・毎年冬に行っている読書フォーラムについては、市町村の図書館、学校図書室、教育委員会、ボランティアの皆様の協力で、大変濃い内容にしていただきお礼を申し上げたい。今後も引き続き関係者の協力を得ながら魅力あるフォーラムを実施していきたいと考えている。

県立図書情報館の今後の課題

〇奈良県立図書情報館副館長代理　鈴木陽生係長

・奈良県図書館協会は、公共図書館部会、大学・専門図書館部会、高等学校図書館部会、小・中学校図書館部会の４部会で構成されている。この協会主催で７月２７日に帝塚山大学を会場として研究大会を開催する。今回のテーマは、「ICT 時代における図書館資源の活用」とし、記念講演は、国立国会図書館関西館の方に国会図書館の活動状況を中心に新しい取組についてご紹介をいただく。実践報告として、各部会さんからの報告もしていただく。また、本日ご出席の田原本町立図書館の澤田係長様に公共図

書館部会からの実践発表として、障害者差別解消法の施行に伴う図書館における障害者サービスについての活動事例を発表していただく。また、それ以外に小、中学校、高等学校からもそれぞれ事例発表をしていただくので機会があればぜひ参加していただきたい。

・もう１点は、パイロット・プロジェクトの関係で市町村の図書館への支援を考えている。特に、図書館の未設置地域への学校図書館にどのような支援ができるのか考えている。図書館のない２か所ほど、具体的には山添村と御杖村であるが、夏休みの期間に出向いて読み聞かせなどを行いたい。以前から図書館未設置の地域へは、学校図書館を通して支援をさせていただいている。図書情報館で購入した読み物や児童書などの配本サービスだけであったが、もう少し効果的なサポートができないかということで、人的なサービス、人を介在してサービスができないかと考えている。成果自体はまだ出てないが、こういう話を関係者の方にすることで反応があったり、生徒貸し出しの実績に結びついたりしているので、それを踏まえて来年度に向け予算要求もしていきたい。

図書館での読書活動推進について

〇奈良県町村教育長会代表
　田原本町立図書館長代理　澤田糸美係長

・先ほど話が出ていたマルチメディアデイジーについては、昨年１０月から開始している。貸出規則と同じ冊数を上限に貸し出している。しかしながら、このサービスを周知することが難しい。図書館から学校へ出かけ、PR することがなかなかできなかった。そこで、子ども読書推進協議会や、図書館と小・中学校、幼稚園、保育所、ボランティアさんとそれぞれ行っている連絡会でマルチメディアデイジーのことを宣伝すると広報誌に載せるより反響があった。田原本町では、平成１８年３月末に「子ども読書活動推進計画」を策定し、子ども読書活動推進協議会を開催していた。推進協議会は去年から図書館に事務局が移動した。協議会には校長先生等各学校の代表の方に参加していただいており、全町的に子ども読書活動のことを考えていきましょうという会になっている。こういうところで宣伝すると効果があり、学校全体に話が伝わるようになる。

・町立図書館では、おはなし会やおはなし配達など学校に出向いておはなし会を行っているし、ブックトークの授業もしている。先ほど奈良市では、市立図書館から本を配置してもらっているとお聞きした。田原本町でも授業担当の先生から必要な本の要望があれば生徒分を団体貸し出ししている。学校司書はいないが、学校への団体貸し出しにより学校と図書館との連携が密になってきた。このように、連絡会等の回数を重ねることで結びつきが強くなりつつある。また、読書週間やクリスマスイベント、夏休みのイベントなど、各種イベントを計画し啓発活動を行っている。県から紹介があった読書活動の啓発ポスター優秀作品の展示については、ほぼ毎年開催している。この啓発ポスター展示は結構反響がある。町内の生徒の作品が無い年でも、友達や親戚の子どもの作品があることもあるらしく、結構多くの方が鑑賞されている。

・他の図書館と違う目新しいこととして、児童書の現物選定会がある。連絡会での学校の先生方からの意見として、「町内の本屋さんだけでは図書室用に購入する児童書を

しっかり選ぶことができない。町外の大きな書店に見に行かなければならない。」という相談があった。その解決策として、取引業者にお願いし、図書館の会議室において児童書の展示会を開催している。そこに各校の先生方に来ていただいて、図書室用の児童書を選定していただく機会を設けている。また、図書館への寄贈本についても小中学校の先生に来ていただいて欲しい本を持って帰っていただく機会も設けている。

・朝読については、町内のすべての小中学校で実施されている。小学校については、図書館のおはなし会ボランティアさんが週何回か支援に出かけている。幼稚園には、図書館で購入した本を２か月ごとに巡回して読んでいただく活動もしている。本の利用方法に決まり事を設けると敷居が高くなるので、原則幼稚園にお任せし、自由に活用できるようにしている。

学校現場での読書推進について

〇奈良県学校図書館協議会　高等学校図書館研究会代表
　奈良県立高円高等学校長　足立有司委員

・一斉読書について、高等学校で何らかの形で一斉読書を行っている割合は４４．２％である。奈良県の高等学校は、２０１５年８月に高等学校図書館研究会で実施したアンケートでは５３校中３４校が何らかの形で読書の時間を取り入れている。

・高等学校図書館研究会には司書部会があり、そのメンバーは司書教諭ばかりではない。県から司書教諭の配置はされているが高図研のメンバーは事務局長も司書教諭の免許は持っていない国語の教員であるが教諭という部分以上に司書の役割は非常に大きいものがある。

・朝読の持ち方は色々あって、毎日毎日朝読の時間を確保したり、学期の中で何回か実施したり、毎週水曜日は朝読の時間としたり、この期間１週間は朝読を続けようなど方法は色々ある。朝のスタートにおける読書の役割は、授業にスムーズに入ることができるという側面がある。ただ、最初の頃は、朝の連絡ができないという課題なども出ていた。

・全国学校図書館協議会の調査では、高校生が５月の１か月に本を１冊も読まなかった割合は５１．９％である。調べ物の仕方の優先順位でも複数回答でスマホ・タブレットを使用するが８９．３％、家族・友達・先生に聞くが４９．８％、辞書･百科事典が３８．２％となっている。調べたことの確認は他のサイトで調べたが５８％、本を使って調べないでサイトを利用している。また、確かめないが２８％となっている。ウィキペディアのサイトを使って調べてしまうがその情報の信憑性もどこまであるかという問題点もある。

・高等学校において、２・３年前から読書感想文の対象作品としてディジタル書籍の利用について質問が出てきている。デジタルでしか出版されていない本が生まれてきている中でアナログの図書の利用の仕方をどうするか難しい。

・学校図書館の課題は、図書室はあるが本の数が少ないということが最も大きい。寄贈本などで本の数は増えつつあるが予算の関係もあり、思うようには行かない。また、図書室の蔵書管理はコンピュータを使って行っているがこのことについても司書の役割が大きく大切だと感じる。

・本校では今年から始まった高等養護学校の分教室で生徒１０名が学習している。その生徒達を図書室に案内したときの様子を見ていると、図書室やそこにあるいろいろな本に対し、大変興味を示しているのが分かる。本の持っている魅力や図書室や本が子どもに訴える力のあることがよく分かった。

図書館での読書活動推進について

〇奈良県図書館協議会公共図書館部会代表
　奈良市立中央図書館長　中知子委員

・奈良市の図書館の開館時間を昨年から日曜日を午後７時までに変更するとともに祝日も開館した。平日の児童室は５時以降の来館者は少ないため、５時で閉めさせてもらっている。開館時間、開館日も増えた関係で来館者が若干増加傾向にある。
・子どもの読書活動推進への取組としては、定期的におはなし会やファーストブックなどを行い、小さいうちから本に触れる機会を増やすための様々なイベントを開催している。
・昨年度、ぬいぐるみのお泊まり会を行った。初めての取組なので１０組募集したが、結果１３組の参加があり盛況であった。参加した子どもの保護者からは、大変良かったという感想も寄せられ、子どもが図書館に興味を持つきっかけになったのではないか思っている。
・小さい頃から何らかの形で図書館や本に親しむ事を続けることで、小学校、中学校、また大人になって図書館に帰ってきてくれるのではないかと思っている。このような活動を継続することが大切だと考えている。
・昨年の読書に関する調査結果を聞くと、中学生など図書館に行ったことがないという人の多いことが分かった。図書館で見ていても、１０代の世代に図書館へ来ていただけないので、如何に足を向けていただけるかが課題となっている。
・先ほどの報告のように、昨年から奈良市では、学校と図書館が連携し、公共図書館の司書が学校に出向き、学校図書室の活性化、充実を計っていく取組をしている。その中では、読書環境の整備が大きなウエイトを占めているが、今後は学校関係者の意見を伺い、ボランティアの方にも関わっていただき、どのような取組をしていくか検討していきたい。
・先日、他の会合で、公共図書館の司書が学校の図書室へ行き、専門的な立場で図書室を見ていただくと将来的に公共図書館に足が向くと言う話を聞いた。そういうことから、やっている意味があるなと思った。

〇奈良県都市教育長協議会代表
　橿原市立図書館長　福西繁委員

・子どもの読書活動推進に関連し、橿原市立図書館の貸出冊数がどうなっているか気になり調査した。その結果、１０年前の平成１８年度では、約５９万冊であったが、昨年平成２７年度には約４６万冊となり、約２割減少している。その原因は色々あるが、インターネットや携帯電話関係、電子書籍等の IT 機器が普及したことで図書館を利用する機会が減少したというのが一番大きいように思う。また、借りたい本があっても冊数が少なく借りられないという図書館環境の変化、施設の状況の変化も原因してい

るのではないかと思っている。

・橿原市では、子どもたちが読書に親しむとともに関心を持ってもらうための方策として、平成２４年度から「こんな本読んでんねん！」事業を始めた。これは、小学生の高学年を対象に、自分たちが薦める本の書評を募集し、その中から優秀な作品を市の広報に掲載するとともに、図書館でその本と共に展示貸し出しをするというものである。平成２７年度には５６冊の優秀作品があった。平成２４年度に応募３２８件からスタートした事業が、平成２７年度には５３８件に増加している。子どもたちが読書に親しむ契機になっているように思う。これからも読書活動の底上げに繋げていけたらいいなと考えている。

・一方、現在は高齢化社会であり、時間のある方々や学習意欲の高い団塊の世代も増加してくるので､そういう方への貸出冊数の増加に向けた取組や方策を考えていきたい。

・図書館としてできることは、図書購入費の増額が必要と考えるが、財政事情があり思うようにはならないのが現状である。図書館が継続的に行うべき事は、アンケートを行い、それをもとに、利用者のニーズや地域社会の状況に沿った蔵書整備を行っていきたい。また、利用者が図書館を利用したくなる工夫として、テーマ展示や企画展を通じて利用者にお薦めの資料を継続的に提供することや、時事を意識したイベントを行うなど、定期的に図書館から情報発信し、市民の方々の来館を促したい。

・図書館の職員としては、図書館は人なりとよく言われるように、親しみやすくて相談しやすい雰囲気づくりに努めたい。利用者の方の要望に的確に応えることにより信頼感を醸成できるように努力していきたい。

学校図書館への司書配置について

〇民間団体ボランティア代表

奈良子どもの本連絡会　井上幸子委員

・去年からこの推進会議に出席させてもらっている。去年はいろいろな話を聞き、読書活動推進に向け、工夫されているなと感じ、民間ボランティアとしては大変嬉しく思っている。今日の話の内容もいろいろ工夫し、努力されていることがよく分かったが、実際にボランティア活動をしている現場にいるとなかなか手応えが分からないところもある。たとえば、私たちは民間団体「奈良子どもの本連絡会」であるが、私はそれ以外に子ども文庫と奈良の民話を語り継ぐ会の３か所に所属し、お陰で日々忙しく活動している。

・ボランティアの皆さんはスキルアップのため日々努力している。昨日も吉野山金峯山寺の「蛙飛び」行事を見学した。「蛙になった人間」という民話を語る時、実際行われている行事を見ておけば、おはなしにふくらみが出てよりうまく伝えられるのではないかと考え、見学させてもらった。

・奈良子どもの本連絡会も４０数年経過し、先輩諸氏から様々なことを受け継いで頑張って活動している。

・いつもこの会議でお願いするのは、学校図書館に専門・専任の司書を完全配置してほしいということである。豊中、箕面では、１５年、２０年前から全小中学校に専門の専任司書が配置されている。司書を置く前と後では、読書に対する関心度が違うし、貸出冊数もめざましく増える。このような状況を見ていると、ぜひ奈良でも実現して

ほしいと願って、いつも声を大にして言っているが、なかなか実現にはほど遠いように感じる。
・公共図書館に専門・専任司書の方を配置してほしいということも言い続けてきた。今日いろいろな話を聞いていると、少しずつではあるが進んでいるように思うが、我々ボランティアとしても協力したいと決意を新たにした。
・私たちは、小学校で読みきかせを行っている。学校によっては、毎学期来てくださいという学校もあれば、１回きりの学校もある。これは先生の姿勢なのか、校長先生のお考えなのか分からないが、ボランティアとしては、できるだけ足並みをそろえ近くの学校へ定期的に行きたい。
・近くの小学校では、やっと今年度から朝読が始まった。当初ボランティアにも要請があったが、協力はするが、毎日のことはできる限り保護者で行ってもらうようお願いすると、そのようになってきていて嬉しい。
・先日、齋藤惇夫さんの講演会に参加すると、齋藤さんは、「朝読でも何でももっと先生がやるべきだ。ボランティアの方に頼らずもっと先生方に活躍してほしい。」と話されていて、そういう見方もあるのかと思った。ボランティアとしては、子どもたちのために一生懸命努力しているので、いろんな話を参考にしながら、私たちの活動の幅も広げ頑張っていきたい。
・最後に、私たち読みきかせボランティアの活動に男の人に加わってもらっている。男の方の読みきかせは、子どもたちに大人気である。これからは男の方の読みきかせを増やせるよう、定年退職された男の方にも働きかけていきたい。

読書活動推進について思うこと

〇学識経験者

奈良教育大学教職大学院教授　松川利広委員

・本日の資料７に奈良県子ども読書推進会議設置要綱が示されており、その第１条に「奈良県子ども読書活動推進計画に基づき」となっている。本日の会議もこの推進計画に基づいての会議であり、我々の任務も同じである。先ほど奈良県下の市町村の推進計画の策定状況の現状と推進計画の策定のためにガイドラインやマニュアルを作り市町村に訪問されていることを聞くと、本当に努力されているなと思った。また、奈良県の策定率については、統計のマジックがあって、資料１０のように奈良県には３９市町村あり、人口約１４０万人である。他の府県と比べると、人口に比して市町村の数が少なく数字の上ではこのようになる。奈良県の場合も、策定済みのところの人口とまだ策定していないところの人口、策定の影響を受けている地域、人口はどうなっているのかを別の数字を出してみると考察が違ってくるように思う。いずれにしろ、この策定率が１００％になるように願うとともに、県のこれまでのご努力に敬意を表したい。
・現在、子どもの読書活動推進に関わる情報は、国立国会図書館の国際子ども図書館のホームページで統括している。それによると第２次、第３次と推進計画を改定している。これもマンパワーやいろんな事で大変であるが全面的は無理にしても見直してマイナーチェンジしている。本県も推進計画を策定してから年数が経っている。これを第２次というかレベルアップしていく準備をするようにしてはどうか。それは、設置

要綱第２条の所掌事務の１番目に「子どもが読書に親しむための機会の提供の推進」と書かれている。

・読書に親しむというのは、読書にアナログもデジタルもあり、いわゆる ICT の推進によって、読書というフィールドが少しずつ変わってきた。学校では、デジタル教科書が副読本から教科書に格上げするという話もある。そのような中、読書という概念を整理する必要があるのではないかと思う。

・また、読書機会の提供の推進というのは、まさにその通りで、食べず嫌いという言葉があるが、子どもにある一定の時間与えその時間は本を読むと、「本はおもしろい」、「本は自分のためになるな」と感じるようになる。強制することによる効果がある。奈良県教育の日があるので、奈良県読書の日というのを設けて、この日はともかく学校でも家でも本に接するという日があっても良いのではないか。

・読書の機会を創るという意味では、朝読は大変効果をあげている。１０分程度であるが活字と向き合って少し心が落ち着いて、１時間目の授業が始まる。このように効果を上げているので、子どもたちに読書の時間をキープしてあげることは、成長過程において大事なことと思う。

・２番目の環境の整備については、人的な環境と物的な環境がある。人的な環境では、司書教諭を単独で養護教諭のような位置づけにできるかどうかというのが一つであろう。さらに、司書教諭とタイアップする学校図書館の司書をどのように配置するか。そうすると当然、現実問題として人件費の問題があるが、そこをどうクリアしていくかという時に、ボランティアの方へのお願いの仕方をどうするか。また、チームとしての学校と言われているので、校長や教育委員会がチームとして学校をどう支えて行くのかということが問われているのではないかと思う。それぞれの学区、地域には、協力を惜しまない人がおられるのではないか。そういう人たちが手を上げて参入しやすい環境づくりに努めるのが良いのではないか。そうすると、マンパワーの司書教諭に代わる司書や協力してくださる人たちのレベルをアップし、クオリティーを良くしていかなければいけないので、その研修の計画などは、先ほどの事業計画であった研修会などを活用して参加してもらって、ある種の認定証を発行すると、図書館に関わるボランティア活動の一定の要件を満たすことで学校現場としても安心してお願いできるのではないか。

・物的な環境の方については、図書館だけは、学校の中で少し違う空間だと感じ、図書館へ行ってみようと思うようにしたい。図書館へ行ってみたくなる要素として、図書室の木質化や床の絨毯敷きなど、教室とは違う環境にすることで、その場で本を手にし、読むようになる。

・蔵書の事、本の数については、新しい本を増やそうとすると、お金が必要なことであるので、集書計画、集書に当たっての本を見る目、選ぶ人の力もアップしていく必要があると思う。

・推進体制の整備についても、一度レベルアップを考えるか環境をどうしたらレベルアップできるかというところに着手されたらどうかと思う。

・ポスター募集、研修会やフォーラムの開催、各公共図書館やボランティアの地道な活動により、子どもたちの読書活動がさらに進んでいることに敬意を表するとともに、大変いい取組だと思う

奈良県教育振興大綱（平成２８年３月策定）について

〇事務局

・この大綱は、法律で各都道府県に策定が義務づけられ、本県も有識者による意見聴取、パブリックコメント等を経て本年３月に策定されたものであり、県教育行政の基本方針である。

・その構成は、第１章大綱の主旨、第２章本県の教育の現状と課題、第３章基本理念と目指す人間像、第４章施策の基本的方向性となっている。この第４章に「本県の教育の課題に応じた教育のあり方」が示され、そこに「その施策の方向性」として、「地域への誇りと愛情を抱き、地域と協働し、地域･社会に貢献する人材の育成」が示され、その中の「現代的･社会的な課題等に対応した学びの推進」に読書活動の推進と記載されている。

・「現状と課題」に「市町村における子ども読書活動推進計画の策定状況」や「学校の授業時間以外に普段全く読書をしない」と回答している児童生徒の割合の記載があり、いずれもあまり良くない状況である。これを受け、主な取組として、「現代的･社会的な課題に対応した学びの推進」の中に、「様々な体験活動及び読書活動の推進」として、「子ども読書活動推進フォーラムの開催などにより」となっており、様々な取組によって、子どもの読書活動を推進すると記載されている。

・先程から、読書活動推進に向けた取組などをご紹介いただいたが、本大綱の内容についてのご認識もお願いしたい。

【吉田議長】

ありがとうございました。

本日は、委員の皆様から貴重な意見をたくさんいただきました。今後、今日いただいた意見を踏まえ､子どもたちが読書活動に親しむことができる時間の確保や環境の整備、機会の提供等を目的とした事業の検討材料といたします。

長時間にわたり積極的にご議論いただきお疲れ様でした。以上で平成２８年度奈良県子ども読書活動推進会議を終了いたします。

ありがとうございました。